

ニューズレター 2014 年度第 3 号

日本音楽表現学会 2015 年 3 月 31 日発行

目 次

【巻頭言】 沖縄へ行きましょう！—沖縄のことども—.....	木下 千代	p. 2
【随 想】 ドイツの教会にて	藤原 嘉文	p. 3
日本音楽表現学会第 13 回（美ら島）大会のご案内		p. 4
お誘い、大会実行委員会組織、大会日程、プログラムの概要と司会者・発表者氏名 宿泊、参加費、懇親会、参加申込、送金方法（含・払込取扱票記入方法）、申込〆切、 首里当蔵キャンパスへのアクセス、首里当蔵キャンパスから那覇空港へ		
新入会員紹介		p. 9
日本音楽表現学会後援コンサート等情報		p.11
会員による CD リリース		p.12
学会ロゴ選考		p.12
日本学術振興会「育志賞」の推薦について		p.12
『音楽表現学』Vol.12 原稿募集		p.13
理事会・編集委員会からの報告とおわび		p.13
事務局からの大変重要なお願い		p.14
年会費の納入について（含・新納入方法と年会費払込取扱票記入方法） 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届けください！		
事務局からの重要なお知らせ		p.15
ニューズレターへの投稿 学会の会員サポート制度をご活用下さい。 会費納入について 『音楽表現学』バックナンバー購入方法		
【各種書式】		p.15
日本音楽表現学会第 12 回（まほろば）大会のご案内（簡略版）		p.16
2014 年度役員一覧		p.16
編集後記		p.16

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費 （5,000 円）の振り込み

→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

沖縄へ行きましょう！

—沖縄のことども—

木下千代（ピアノ・総務担当理事）

春爛漫の好季節となりました。学会員の皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。この冬は雪の多い殊のほか厳しい冬でした。それだけに春の到来は感慨ひとしおです。

この時期になると「年々歳々、花相似たり 歳々年々、人同じからず」という言葉を思い出します。有名な劉希夷（651-679）の「代悲白頭翁（白頭を悲しむ翁に代わりて）」の中の一節で、私は茶道の先生から教わりました。本来は栄華の移ろいやすいことを嘆いた無常観を湛えたもの悲しい詩なのですが、変わる事のない大自然の営みの中で人間は年々変わっていくという言葉に、いかに生きるべきかという示唆が含まれているようで、一年一年少しでも成長していきたいものであるという気持ちにさせてくれる一節です。

さて、今年の大会は沖縄です。日本音楽表現学会は毎回さまざまな土地の特徴と良さが盛り込まれた楽しい大会を開催していますが、今年も当番校である沖縄県立芸術大学の実行委員会の方々と理事会が、充実した大会に向けて着々と準備を進めており、期待に胸が膨らみます。

私事ですが、沖縄には深い思い出があります。20代のころ、那覇にできたばかりの前衛劇場ジャンジャンでの公演に出演するため2度訪問しました。その折に首里城やひめゆりの塔などの観光のほかに、普通は入ることのできない嘉手納の米軍基地のバーに連れて行ってもらいました。若かった私にはそのバーの光景が異様なものに映ったことを覚えています。ここはいつたいどこなのだろうという不思議な感覚でした。

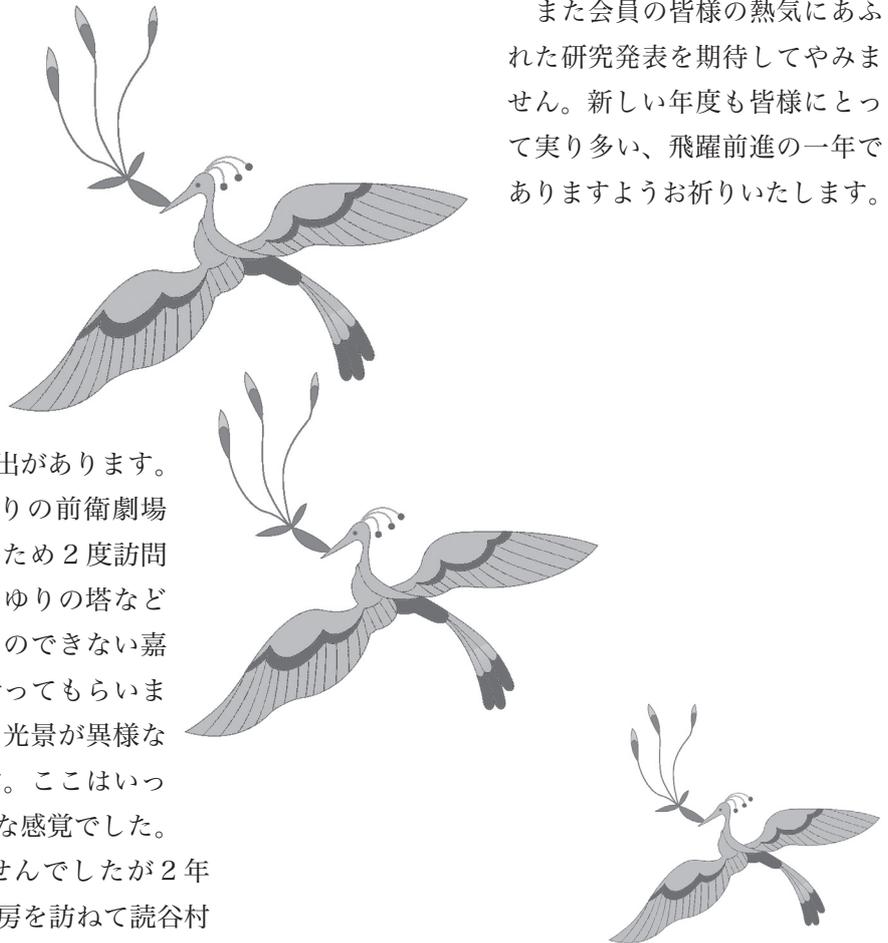
その後しばらく訪れてはいませんでしたが2年前、大好きな紅型の作家さんの工房を訪ねて読谷村に行きました。有名な「さとうきび畑」の舞台となっ

た背の高いサトウキビの間を通りながら、ここに初めて米軍が上陸し地上戦が始まったことを思い、まぶたを熱くしました。

沖縄の抱えてきた歴史はその地に足を踏み入れて初めて実感できるものだと思います。基地のそばに実際に通り、また美しい海を眺め独特の風土と文化に触れることで、沖縄はぐっと近いものになることでしょう。

まだまだ知らないことがたくさんあるのですが、とにかく皆様、沖縄に行きましょう！様々な魅力が満載で一度行くと人を虜にする土地です。沖縄の地で音楽について芸術について、美味しい料理や泡盛を味わいながら大いに語り合おうではありませんか。県立芸術大学の皆様、お世話になります。どうぞよろしく願いいたします。

また会員の皆様の熱気にあふれた研究発表を期待してやみません。新しい年度も皆様にとって実り多い、飛躍前進の一年でありますようお祈りいたします。



ドイツの教会にて

藤原嘉文（作曲・総務担当理事）

このところ縁あって、毎年ドイツへ出掛けている。大学の授業が無い9月に行くことが多いが、昨年は秋にかけてオーケストラ新作の作曲と諸準備にかかりっきりであったため、今回初めて真冬のヨーロッパを訪れた。2月のハンブルグは本当に寒かった。聞いてはいたが外の寒さは尋常ではない。ただ室内は猛烈に暑く、この寒暖の差は相当なもの。現地ではTシャツ姿の人も多く、外へ出る時ダウンに身を包み、手袋、帽子、マフラーという出で立ちになる。

ヨーロッパの街では、教会に立寄るのが楽しみの一つである。金曜日の夕刻など、オルガンのミニコンサートに出くわすことがよくある。無料のことも多く、通り掛かりの人が気軽に聴きに入れる点が良い。先日立寄ったハンブルグの教会では、バッハ、メンデルスゾーン、メシアンとオルガン作品のフルコースとも言えるプログラムであった。このようなコンサートでは、最後に創作演奏や即興演奏で締めくくられることもあるが、当夜は幸運なことに、聖歌と思われる単旋律のテーマを基にしたパラフレーズ的な創作演奏を聴くことができた。私は不案内であるが、そのテーマとなった旋律は、当地では大変ポピュラーなものであろう。その演奏が始まるやいなや、聴衆の拍手で会場は大変和やかな雰囲気。ただ、次第に現代的な和声処理となり、非常に斬新な展開。現代音楽さながらの、なかなか刺激的で楽しい演奏であった。このような演奏があちらこちらの教会で継続的に行われていること自体がとても素晴らしいことであるが、さらに、オルガニストにとっては自分の演奏を披露する機会であり、市民にとっては気軽にオルガン演奏、それも教会音楽以外の作品にも接することができる機会である。奏者と市民と作品を結びつけるという点においても、教会の存在は実に大きいと認識を新たにした。

翌日フラットに入ったマリエン教会では、祭壇を中心に打楽器などが所狭しと並べられ、PA機材が置かれていた。何かのコンサートのリハーサルかと尋ねると、なんと中国の作曲家タン・ダウン (Tan Dun, 1957～) の作品 Water Music の上演だとか。スケジュールが書かれた冊子をチェックすると、その教会ではかなりの頻度で様々な演奏会が催されて

いるのがわかる。日本ではお寺の「お堂コンサート」などがあるとニュースになるが、まだまだ珍しい。

別の日、音楽大学を訪れた際、学生によるイヴニングコンサートに誘われた。会場は近くの教会。年数回行われる学内コンサートは、たいていその教会で行うとのこと。それもそのはず、大学のピアノが1台祭壇近くに保管させてもらっているようで、いつでも使える状態になっている。考えてみると、教会は町の人が自然に集まる場所である。チラシも置いておくだけで目に触れる（周知が容易い）。上述のオルガンコンサートも同様であるが、散歩がてら聴きに來る近所の人も多く、特に集客に悩むこともない。一番のコミュニティーセンターである。不特定多数の聴衆の前で演奏するという点で、学生の方もより真剣にならざるを得ないだろう。「公開」とはいえほとんど身内の学内コンサートと比べると緊張感も達成感も相当違うはずだ。日本においてこのような教会にあたるような「場」とは、さて？

今まで最も印象的だったのは、ライブチヒ・トーマス教会の日曜礼拝である。2時間近くの礼拝は、一つの音楽作品のごとく展開していく。ご存知の方もおられるかもしれないが、合唱、司祭の言葉、全員で唱える言葉、全員での斉唱、これに説教とオルガン作品の演奏数曲が配され、そこに集う全員で作上げるミュージカルのようなものである。私などは周りの人に合わせて立ったり座ったり、口パクで歌う振りがやっとならざるを得ない。その場に居ることができたという満足感は何ものにも代えがたい素晴らしい「時」であった。

左の写真は、ちょうどプロジェクトの一員として制作した「平均律クラヴィア曲集」研究解説全集の完成報告のつもりで、祭壇中央にあるバッハの墓に献花（上部のリボンの付いた花束）した際のものである。



日本音楽表現学会第13回（^{ちゅ}しま）美ら島大会のご案内

期日：2015年6月20日（土）～21日（日） 会場：沖縄県立芸術大学

日本音楽表現学会 第13回【ちゅら島大会】へのお誘い

第13回大会実行委員長 糸数ひとみ

このたび開催されます【ちゅら島大会】は私どもホスト校にとりましても画期的かつ有意義な大会と位置付けられており、日々期待が膨らんでおります。音楽文化は世界各国、様々な歴史と環境で発展し未来へ繋がっております。

ここ沖縄県においても琉球王朝時代の士族たちに受け継がれた音楽が現在も脈々と伝承され、組踊や舞踊とともに私どもの日常生活になくてはならない文化となっております。昨今では当大学を卒業した若者たちの活躍が目覚ましく、社会で注目されております。

皆様にはこの学会を機に来沖されて、沖縄の培った文化や日常のありさまをズバリ見ていただきたいと願っています。規模は小さい大学ですが、音楽学部会員総力あげて皆様の研究発表および相互交流のサポートをさせていただきます。お一人でも多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

1) 大会実行委員会組織（敬称略）：

実行委員長：糸数ひとみ
事務局長：小西 潤子
委員 総務：島袋 君子
会計：阿部 雅人
会場・機器：久万田 晋
広報：金城 厚
懇親会：山内 昌也

メンソーレー ^{ちゅ}しま美ら島大会

日本音楽表現学会会長 安藤 政輝

早いもので、大会も13回目を迎えることになりました。今回の「^{ちゅ}美ら」という「ウチナーグチ」は、単に「美しい」だけではなく「清らか・かわいい・純粹・きれい・清潔」などの意味を持っている語といわれます。「沖縄美ら海水族館」などでおなじみと思います。

私が初めて沖縄に行ったのは、まだ米国の占領下の時代。パスポートを取って出かけた初めての「海外演奏旅行」でした。車は右側通行、軍のトラックが昼間からライトをつけて突っ走っていました。その時に何の曲を弾いたか忘れてしまいましたが、将校クラブでいただいた厚いステーキとアイスクリームは、暖かいオモテナシとともに忘れることができません。青い空。青い海。町全体が平らで、赤い屋根が緑の木々の中に映えていました。

最近、基地問題がニュースに頻出します。2・3日の「滞在」では戦後70年の歴史の表面のみしかわからないかもしれませんが、その場の空気に直接触れてみることによって必ず何か新しい発見があることでしょう。

豊かな自然・歴史・文化を持つ沖縄で初めて行われる^{ちゅ}美ら島大会にぜひお出かけください。メンソーレー！



デイゴ

マメ科の落葉高木。インドやマレー半島が原産。

日本では沖縄県が北限とされている。

1967年に県民の投票により「沖縄県の花」として選定。

2) 大会日程：

20日(土)													
10:00	12:20	13:00	13:15	13:20	14:05	14:10	15:40	16:00	17:00	17:10	18:40	19:10	21:10
実行委員会 編集委員会 理事会	受付 管理棟 入口	開会式	基調講演			シンポジウム		総会		分科会 I		移動	懇親会
										A,B,C,D,E,F,G 会場		ホテル日航那覇 グランドキャッスル	
21日(日)													
9:00	9:15	10:45	11:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45	17:00	18:30			
受付 管理棟 入口	分科会 II		分科会 III			分科会 IV		分科会 V		実行委員会 論文集編集委員会			
A,B,C,D,E,F,G 会場		A,B,C,D,E,F,G 会場			A,B,C,D,E,F,G 会場		A,B,C,D,E,F 会場						

3) プログラム概要と発表者等氏名 (敬称略)：

基調講演 「沖縄の文化と古典芸能」

講師：金城 厚 氏 (音楽学・沖縄県立芸術大学教授)

三線ほか：和田信一、大城貴幸 (沖縄県立芸術大学大学院博士後期課程)

シンポジウム 「沖縄音楽のローカルとグローバル」

司会：小西 潤子 (沖縄県立芸術大学教授)

シンポジスト：久万田 晋 (沖縄県立芸術大学附属研究所教授)

島袋 君子 (沖縄県立芸術大学元教授)

(コメンテーター) 金城 厚 (沖縄県立芸術大学教授)

発表形態

WS：ワークショップ

UW：学会統一テーマワークショップ

PP：研究発表

CP：共同研究

分科会

会場 司会者名 発表種 発表者名 発表題目

I A 今 由佳里 ①CP 阿方 俊・友永 和恵 タテ線譜メソッドによる鍵盤楽器導入の研究 (2)

—タテ線譜メソッドと多様化する実践現場—

②CP 酒井 勇也・渚 智佳・馬田 一郎・小川 純一

児童の音楽創作と創造的思考力の相関

—ヤマハ音楽教室における所属クラス別の分析を通して—

B 佐藤裕美子 ①PP 甲斐万里子

レッスンにおける指導内容がピアニストの演奏解釈に与える影響

—レッスンの観察および練習過程の分析を通して—

②PP 松井 典子

国際バカロレア認定校における幼児音楽教育プログラムについて

C 似内裕美子 ①PP 小島 千か

造形表現を関連させた音楽聴取と音楽づくり

②CP 近藤 春恵・小西 潤子

縄の素材を使った音楽・伝統工芸のコラボレーション 「織の響」の創出

D サロン (ピアノ、声)

E サロン (ソルフェージュ、管弦打楽器、作曲技法と音楽表現)

F サロン (指揮、日本音楽、音楽表現と社会)

G 谷村 宏子 ①PP 鈴木慎一郎

「地域調査実習」における《貝殻節》の取り組み

②PP 阿部亮太郎

教員養成大学での、学生の音楽劇創作の題材に向かう姿勢の問題点

II A 中 磯子 ①CP 竹下可奈子・ズビャーギナ章子

ムースルグスキイの歌曲集《子供部屋》の演奏表現

—ロシア語イントネーションの扱いに注目して—

②PP 宮田 知絵

二つの《城ヶ島の雨》その比較と表現研究

—声楽家は同じ歌詞を、どう歌い分ける可能性を持つのか—

B 齊藤 武 CP 金谷こうすけ・滝田 善子

実践的ジャズ試論—武満徹『Songs』を題材として—

- C 木許 隆 ① PP 木下 和彦 音楽科創作教材の開発を目的とした J-POP の旋律構造分析
—同音反復と歌詞の二側面に着目して—
② PP 丹羽亜希子 沖縄民謡、琉球古典音楽における女性の進出と、
それに関わる声質とキーの変化について
- D 佐川 馨 ① PP 新山王政和 学校吹奏楽と合唱の音楽的指導に関する意識の差異
—音楽的学びを保証する教師の指導観に着目して—
② PP 田中 恭平 小学校におけるマンドリンを用いての教育実践
—音楽表現を交えて—
- E 宮本賢二郎 ① CP 永岡 都・尾見 敦子 幼小接続期に求められる音楽表現の質を考える (1)
—フィンランド、エスポー市の事例を通して—
② CP 井下 べに・尾見 敦子 幼小接続期に求められる音楽表現の質を考える (2)
—ドイツ、ノイス市の“Jedem Kind seine Stimme”の事例を通して—
- F 水戸 博道 ① CP 荒川 恵子・豊田 典子
幼稚園訪問演奏会における「音楽と科学のコラボレーション」の内容検討
—生物の生態から自然のサイクルを学ぶ試みを中心として—
② CP 加藤 晴子・加藤内藏進・赤木里香子
音と色の関わりを意識した気候との連携による学際的活動にみる表現
—季節の進む方向の違いに注目して—
- G 笹野恵理子 ① PP 杉江 淑子 日系ニューカマーの音楽空間：日本在住ブラジル人における
「ブラジルの子どもの歌」の受容
② PP 曾田 裕司 音楽様式としての幼児の音楽表現
- Ⅲ A 澁谷 由美 ① PP 藤原 嘉文 音楽の即興表現を考える (4)
—創作的即興演奏の実践例を中心に—
② PP 武本 京子 「イメージ奏法」による「音楽の構造のとらえ方」と
「イメージに導かれた表現方法と奏法」
- B 川口 容子 CP 小畑 郁男・佐野 仁美 J. S. バッハ《平均律クラヴィーア曲》における
前奏曲とフーガの旋律素材の連関
- C 應和 恵子・木下 千代・後藤 丹 学会企画統一テーマ・パネルディスカッション「伝統と継承①」
鼎談；音楽表現における伝統と継承の帰納的・主体的検証
- D 原田 宏司 ① PP 紺谷 志野 雑誌『音楽新潮』に見る日本におけるスペイン音楽受容
② PP 奥坊由起子 20世紀初頭イングランドにおける国民音楽観
—R. ヴォーン・ウィリアムズの *National Music* (1934) を中心に—
- E 小寺未知留 ① PP 河本 洋一 教育現場におけるヒューマンビートボックス
—日本と台湾の子どもたちの事例から—
② PP 木村 貴紀 音楽批評の価値基準とは
- F 門脇早聡子 ① PP 尾見 敦子 小学校教員養成において求められる音楽表現の質を考える
—アカペラ合唱の演奏発表を中心におく授業実践を通して—
② WS 中村 隆夫 コダーイ「333のソルフェージュ」を探究する—読譜力向上のために—
- G 長谷川正規 ① PP 阿部 雅人 ホルンのアンブシュアについて考える—唇と歯との関係—
② PP 杉山 雄一 幼児に「やさしい」ヴァイオリン教本を考える
—五線譜への移行について—
- Ⅳ A 石原 慎司 ① PP 梅原 圭 バイエル及びブルクミュラー習得後のピアノについて

—魅力的な 19 世紀のピアノ小品と共に—

- ② CP 小野 亮祐・多田 純一 『バイエルピアノ教則本』の自筆譜調査について
—マインツ・ショット社史料室での調査について—

B 小川 有紀 ① PP 三島 郁 鍵盤上の作曲実践法としての通奏低音
—18 世紀ドイツ、イタリアの理論より—

- ② PP 土居 知子 「変奏曲」を用いたピアノ指導の可能性
—演奏技術・表現力・様式感の同時獲得を目指して—

C 久万田 晋 安藤 珠希・比嘉 康春・鈴木祐未子・山下真由美・安藤 政輝
学会企画統一テーマ・パネルディスカッション「伝統と継承②」
三味線の音色表現—三線から地歌—

D 坂東 肇 ① PP 宮里朝一郎 ショパンの出版楽譜にみられるアーティキュレーションの変遷
—ノクターン op.9-2 を中心に—

- ② PP 鷺野 彰子 ピアノロールの計量的解析によるパデレフスキのルバート奏法分析

E 船橋三十子 ① PP 中村 滋延 今史朗、現代音楽史を体現した前衛作曲家
—忘れられた作曲家の再評価の試み—

- ② PP 寺内 大輔 ジョン・ゾーンの《コブラ》演奏における〈ダブルバインド〉
—個人的音楽価値観の相対化の装置として—

F 中島 直巳 ① PP 内山 尚美 ミュージカル活動が育むもの（2）
—磐田こどもミュージカル卒団生の追跡調査から—

- ② PP 土門 裕之 拓殖大北海道短大ミュージカル活動 31 年の変遷と改革
—教師誘導型から学生の主体的活動への転換—

G 中村 文緒 ① PP 吉永 誠吾 バッハ作曲〈無伴奏ヴァイオリンパルティータ〉第 2 番ニ短調から
《シャコンヌ》の和声進行を重視した演奏法

- ② PP 高旗 健次 K・フレッシュのヴァイオリン奏法の特質

V A 安田 香 WS 澤田まゆみ 安部幸明のピアノ曲集《夢の世界》における「おはなし」の役割を考える
—演奏・おはなし・鑑賞の実践をとおして—

B 西田 紘子 ① PP 中畑 淳 ショパンのピアノ作品におけるリズム表記
—前奏曲 作品 28 の 9 を例として—

- ② PP 村尾 忠廣 和歌の音数律を歌唱形式に乗せた名作—その作曲技法を分析する—

C 沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻 WS おきなわの三線をひいてみよう。

D 吉永 早苗 ① PP 渡会 純一 状況に応じた器楽アンサンブルの編曲について（2）
—「卒業コンサート」における小編成演奏のアレンジ—

- ② PP 山崎 英明 フィードバックを用いた歌唱学習に関する一考察
—運動学習に基づいたピッチマッチング課題を事例に—

E 福島さやか ① PP 菅 道子 1930 年代東京市の初等音楽教育事情
—絶対音感教育と簡易楽器による器楽教育の出現—

- ② PP 岡部 裕美 音楽の感情的性格の聴取における幼児と大人の差異
—調とテンポの違いに注目して—

F 中西 沙織 DM 奥 忍 「能は面白い！」—能の体験学習開発—

新入会員紹介

個人情報につき p.9-10 を削除

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

- 中村滋延さん シンポジウム＋コンサート「福岡に生きた前衛作曲家・今史朗^{こんしろう}」
日 時：2015年3月8日(日) 14:00～17:00
会 場：九州大学大橋キャンパス多次元デザイン実験棟ホール
料 金：無料
主 催：九州大学大学院芸術工学研究院中村滋延研究室
演奏者名：後藤龍伸、宮崎由紀子、上野美科、山本佳代子、田室伸哉、檜垣智也
講 演：「今史朗の作曲活動の特質」
シンポジウム：「今史朗が福岡で前衛作曲家として生きた意味」
コンサート：今史朗作曲《Violin と Piano のための4楽章》1957、他
趣 旨：福岡で活動した作曲家今史朗(1904～1977)の業績を世に知らしめるための企画である。彼の作品についての理論的研究成果を口頭発表及び作品上演を通して提示する。
- 加藤晴子さん 岐阜聖徳学園大学専任教員によるスプリングコンサート
日 時：2015年3月8日(日)
会 場：岐阜市文化センター
料 金：2,000円
主 催：岐阜聖徳学園大学
演奏者名：荒木善子、亀井良幸、村田睦美、加藤晴子、深貝美子、大地宏子、大西隆之
演奏曲目：ソプラノ、メゾソプラノ独唱、ピアノ独奏、クラリネット、アンサンブル、作品発表、等。
趣 旨：地域への文化発信、地域と大学との交流
- 岡田 孝さん 宗教的合唱カンタータ「マリア観音」全曲演奏会
—“女声コーラスの会ミルテの花”第10回記念公演—
日 時：2015年5月2日(土)午後2時30分 開演
会 場：宝塚ベガホール
料 金：2,000円
主催後援：東京国際芸術協会、幸楽会(大阪音楽大学)、同声会(東京芸術大学)、沙羅の木会(相愛大学)、その他
演奏者名：Sop. 宮田知絵／歌三線／山内昌也／Vn. 岡田光樹、Org. 白井真奈(在・独)、合唱：女声コーラスミルテの花、指揮：岡田孝、その他
曲目など：Maria Avalokitesvara 全曲／R. シュトラウス：チェチーリエ／L. マルシャン：グラン・ディアローグ／橋本国彦：城ヶ島の雨／近藤春恵：Mo-Ashibi?U／その他
趣 旨：「合唱団ミルテの花」の第10回記念公演。客演ソリストとして沖縄県芸から歌三線、ヴァイオリン、ドイツからパイプオルガン、と国内外から4名を招いてのソロと合唱による祝祭記念演奏会
- 梅原 圭さん 梅原 圭 ピアノリサイタル
日 時：2015年5月31日(日)
会 場：銀座・王子ホール
料 金：一般 4,000円、学生 2,000円
主 催：さくらエコー
演奏者名：梅原 圭
演奏曲目：J.S. バッハ：フランス風序曲 口短調 BWV831、G. フォーレ：夜想曲 第6番 変ニ長調 作品 63 I. アルベニス：〈組曲イベリア〉《9. ラヴァピエス》《11. ヘレスナヴァラ》他
問い合わせ：piano_umehara@yahoo.co.jp

会員による CD リリース

豊田典子さん

日本歌曲全集 第 10 集

(中田喜直の歌曲Ⅲ 小山清茂・市川都志春・早坂文雄・松本民之助の歌曲)

概 要：明治の洋楽移入以来、現代までの日本歌曲の足跡を収録する壮大な企画。日本の歌の歴史に不滅の作品を築いた中田喜直の名作歌曲。そして日本語と格闘し、強い噴出力を備えた日本歌曲を残した作曲家たちの、個性的な作品群、全 58 曲。

演奏者：Br. 時田直也・Br. 猪澤文人・Sop. 豊田典子・Sop. 坂井里衣・Sop. 宮本泰江・Sop. 島本方世・Sop. 眞田真里絵・Sop 北村知子／Pf. 中村展子・幸野紀子・小林美智・三好敬子・片桐えみ・中桐直子・猪瀬千裕

発売日：2015 年 2 月 1 日

発売：FMC5067/5068 ファウエム・ミュージック・コーポレーション

価 格：4,320 円 (税込)

学会ロゴ選考

日本音楽表現学会では、学会関係の様々なイベントや印刷物、封筒などに掲載するロゴを募集していました。応募〆切の 2 月 20 日 (金) までに 2 本の応募作品が届きました。その中で理事会では下記の 1 点を学会ロゴとして選考しました。総会ではみなさまにオリジナルのカラー版をご承認いただきます。ここではモノトーン版を紹介します。



当選者名：小島千かさん

コンセプト：音符を配した "music" の流れるような線を三味線の直線的な駒と対照させた。

日本学術振興会「育志賞」の推薦について

日本学術振興会から平成 27 年度「育志賞」の候補者推薦の依頼が届いています。以下の三つの条件に合致する会員は推薦を検討しますので、事務局までお申し出下さい。

- 1) 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる大学院生 (平成 27 年 4 月 1 日現在 34 歳未満)
 - ・本学会推薦の条件：日本音楽表現学会機関誌『音楽表現学』に論文が掲載されていること。

- 2) 申し出の〆切 2015 年 4 月 30 日

申し出のあった会員の中から本学会として推薦するにふさわしいと思われる方を 1 名選出します。候補者として選ばれた方は育志賞の受付期間 (6 月 10 日～ 12 日) までに書類を準備していただくこととなります。 <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/data/suisenyokou.pdf#search='日本学術振興会+育志賞+応募要項'> をご覧の上、ご質問等のご遠慮なく事務局までお問い合わせください。

『音楽表現学』Vol.13 原稿募集

『音楽表現学』Vol.13の投稿〆切は2015年5月31日(日)です。

投稿資格：投稿者および共同執筆者は、その年度の年会費を納入した会員に限る。(投稿規定3)

執筆要領・投稿方法：『音楽表現学』Vol.11の巻末、または学会HPの「投稿規程」をご覧ください。

投稿書式：投稿時点では2段組でなく、1段組でご応募ください。

引用文献の記載方法：HPに例示しています。

執筆方法：本学会発行『研究論文執筆のしおり』を参考にされることをお勧めします。

*応募に際しては学会HPに掲載されている「音楽表現学テンプレート」をご使用ください。

*応募する前に学会HPの「投稿チェックリスト」で内容をご確認ください。(以下にも転載します。)

*原稿には学会HPに示された書式の「投稿申込書」を同封してください。

【参考資料】

『音楽表現学』投稿チェックリスト

該当する□に✓を入れ、署名をしてください。

- 投稿者および共同執筆者は、日本音楽表現学会の会員であり、本年度の年会費を納入済みである。
- 使用言語は日本語または英語である。
- 原稿の種別は、投稿規程に則している。
- 本年度における投稿は、共同執筆を含め原稿1本のみである。
- 原稿の内容はオリジナル(自身の研究および先行研究に照らして独自性を有する)なものである。
- 原稿の内容は未公開、すなわち著書、学会誌、大学紀要などに掲載されていないものである。
- 多重投稿の禁止を理解している。
- 原稿の形式は、A4版縦置き、横書きとし、日本語の場合は所定のテンプレートに則している。英文の場合は1ページあたり概ね900語を目安としている。
- 原稿の分量は投稿規程(原著論文、評論論文：20ページ以内(図表等を含む)、研究報告：10ページ以内(図表等を含む)、寄書：4ページ以内(図表等を含む))に則している。
- 原著論文、評論論文、研究報告の冒頭には、タイトル、および、3～5個のキーワードを記入している。
- 原著論文、評論論文、研究報告には、日本語の場合は400字以内の要旨を、英語の場合は英文要旨(200語程度)と末尾に日本語要旨(400字以内)を記している。
- 英文での投稿については、事前にネイティヴチェックを受けている。
- 所定の投稿申込書に必要事項を記入している。
- 図および表にはすべて番号とタイトルがついている。
- 楽譜の全曲引用または自身の新作の全曲掲載はしていない。
- 文献からの文言引用は、原文通りであり、その出典を明示している。
- 注および引用文献は、論文の最後に一括して記している。
- 書誌情報には、著者、(論文名)、書名、出版社、出版年、引用ページを含めている。
- 提出においては、以下のものがすべて同封されている。
 - 1. 投稿申込書
 - 2. 原稿のコピー9部
 - 3. 要旨(寄書は不要)
 - 4. 投稿チェックリスト(本紙)
- 前記とは別に、原稿と投稿申込書をメールに添付して日本音楽表現学会事務局宛に送付する。

理事会・編集委員会からの報告とお詫び

学会では会員みなさまに音楽表現に関する研究をさらに進めていただくために『音楽表現論文執筆のしおり その2』を3月末に発行すべく、準備を進めて参りました。しかし、諸般の事情で作業が停滞し、まだ原稿が完成していません。『音楽表現学』vol.13の応募には間に合いませんが、可及的速やかに作業の遅れを取り戻したいと考えています。2014年度末に発行できなかったことをお詫びいたします。

事務局からの大変重要なお願い

1) 年会費の納入について

- ・学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、会則第8条(2)にもとづき、会費を連続3年間未納の場合には会員を「除名」となりますのでご注意ください。
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」が掲載されています。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- ・本年4月1日からクロネコメール便が廃止になり、「振替払込票」をNLなどに同封することができません。
- ・みなさまに年会費新納入方法ご協力をお願いします。2015年度およびそれまでの年度会費が未納の会員には、年会費納入の依頼文書と振込取扱票を別便で郵送します。事務局から郵送する振込取扱票をなくされた方には郵便局で備え付けの「振替払込票」に以下のようにご記入の上、送金していただくことになります。記入方法を記しますので、どうぞよろしくご願ひいたします。

入金処理作業の混乱を避けるために、「年会費」と「大会参加費」の「振込取扱票」は必ず別にしてください。

- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、振替票右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモを記載の上、保存くださることをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしておりません。

2) 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は速やかにお届け下さい!

事務局からさまざまなお知らせをメール配信しておりますが、リターン・メールがつかねに何通かあります。また、機関誌『音楽表現学』等の重要書類が返送されることもあります。メールアドレス、連絡先ご住所、ご所属等を変更された場合には、下記アドレスから、会員情報フォームに変更事項を入力いただくか、あるいは事務局まで変更事項をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

払込取扱票

00	口座記号番号	金額	千 百 十 万 千 百 十 円
	0 1 3 7 0 - 6 - 7 8 2 2 5	料 金	同額をご記入ください
加会者	日本音楽表現学会		
通 信 欄	以下の年会費を払い込みます。 払い込む年度に□に✓ <input type="checkbox"/> 2015年度 5,000円 <input type="checkbox"/> 2014年度 5,000円 <input type="checkbox"/> 2013年度 5,000円 合 計: 円		
ご依頼人	住所・ご氏名・電話番号をお忘れなく 大会参加費とは必ず別の取扱票をお使いください。 間違いや混乱の原因になります。		

右側の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(通帳番号 欄) これより下部には何も記入しないでください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0 1 3 7 0 - 6 - 7 8 2 2 5	金額	千 百 十 万 千 百 十 円
加会者	日本音楽表現学会		
依頼人	ご氏名を記入、後日の確認のため、必ずお手元に保管をして下さい。		
料 金	円		

切取取らないでお出しください。記載事項を訂正した場合は、その箇所には訂正印を押してください。

事務局からのお知らせ

1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見などをご寄稿ください。

- ・研究ノート、随想など：図表を含めて刷り上がり 1 頁以内
- ・コンサート案内：学会後援・協賛のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVD リリース：会員による刊行物等の紹介を行います。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時。ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

2) 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、本学会は日本学術会議協力学術研究団体ですので大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨

をお記し下さい。

- ・大会の口頭発表は、これまでの研究を発信し、それを参加者一同と共有する場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ・コンサートの後援・協賛とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援または協賛」します。本学会ホームページのリンクから、〔コンサート等後援/協賛申請フォーム〕にて申請してください。

3) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

- 会員価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 1500 円+送料
 Vol.4～Vol.12 は 1 部 3000 円+送料
 一般価格：Vol.2～Vol.3 は 1 部 3000 円+送料
 Vol.4～Vol.12 は 1 部 3500 円+送料
 大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1 は残部がありません。

【各種書式】

1) 「入会申込書」

入 会 申 込 書	[備考]
<p style="text-align: center;">日本音楽表現学会に入会を申し込みます。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名 (ふりがな)： 専門分野： 所 属： 自宅住所：〒 連絡先：(上記と異なる場合) 〒 連絡先 Tel.： e-mail： 推薦者名 (学会員・1名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「入会申込書」を送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。 ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。 ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。 ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。
<p>音楽表現学会に期待されること。ご意見等：</p>	

2) 「後援願」書式 学会 URL 「コンサート・出版物等、後援・協賛申請フォーム」からお申し込みください。

3) その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

日本音楽表現学会第13回（^{ちゅ}しま^ら島）大会のご案内（簡略版）

- ・期 日：2015年6月20日（土）～21日（日）
- ・会 場：沖縄県立芸術大学当蔵（那覇市首里当蔵1-4）
- ・基調講演：「沖縄の文化と古典芸能」
講 師：金城 厚 氏（音楽学・沖縄県立芸術大学教授）
三線ほか：和田信一、大城貴幸（沖縄県立芸術大学大学院博士後期課程）
- ・シンポジウム：「沖縄音楽のローカルとグローバル」
司 会：小西 潤子（沖縄県立芸術大学教授）
シンポジスト：久万田 晋（沖縄県立芸術大学附属研究所教授）
島袋 君子（沖縄県立芸術大学元教授）
(コメンテーター) 金城 厚（沖縄県立芸術大学教授）
- ・新企画：学会企画統一テーマパネルディスカッション「音楽表現における伝統と伝承」
 - ① 鼎談：應和 恵子・木下 千代・後藤 丹
「音楽表現における伝統と継承の帰納的・主体的検証」
 - ② 司会：久万田 晋 パネリスト：安藤 珠希・比嘉 康春・鈴木祐未子・山下真由美・安藤 政輝
「三味線の音色表現—三線から地歌—」（仮）
- ・サロン：これまでの6サロン「声」「ソルフェージュ」「作曲」「管弦打楽器」「日本音楽」「音楽表現と社会」に加えてあらたに「指揮」が開設されます。お誘い合わせご参加下さい。
- ・分科会：発表数が大幅増加、会場はA～Gまでの7会場です。
また、本州とは異なる沖縄文化の粋を見ていただこうと、沖縄県立芸大のメンバーが心を込めて準備をされています。オープニング、全体会、懇親会、ワークショップなどメディアと一味も二味も異なった沖縄文化を満喫して下さい。

2014年度役員一覧	編集後記
会 長： 安藤 政輝 副 会 長： 後藤 丹 小西 潤子 事務局 長： 奥 忍 財務局 長： 小畑 郁男 理 事： 豊田 典子（事務局担当） 木下 千代 藤原 嘉文（総務担当） 應和 恵子（会計担当） 編集委員会： 委員長 菅 道子 副委員長 中村 隆夫 委員 小野 亮祐 澤田まゆみ 志民 一成 曾田 裕司 選挙管理委員会： 委員長 中 磯子 委員 鈴木慎一朗 西野晴香 監 事： 海津 幸子 谷口 雄資 会長諮問会議： 草下 實 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香 参 事： 似内裕美子 松井 萌 近藤 晶子	2014年度も無事終わり、新しい年度が動き始めました。年度替わりが4月というのは諸外国には馴染まないようですが、やはり春の到来とともに新しく別れや出会いがあるというのは風情のあるものだと思います。今回のNLには第13回美ら島大会のことが満載です。どうぞ皆様ふるってご参加ください。親しくなった会員の方のお名前を分科会発表者の中に見つけると期待に胸が弾みます。またサロンも会を重ねるごと充実してきているようです。理事になって思いましたが、新入会の承認連絡がとても多く、これほど急成長を遂げている学会はないのではと感嘆しています。学会ロゴも軽やかに飛翔するような動きのあるデザインが出されました。皆様とともに楽しく自由で音楽にあふれた学会を築いていきたいと思っています。 <div style="text-align: right;">（木下千代）</div>